

千葉大学大学院看護学研究院附属

# 看護実践・教育・研究 共創センター

Collaborative Center for Development of Nursing Practice,  
Education and Research

2024-2025



CHIBA  
UNIVERSITY

## センター長 ご挨拶



看護学研究院附属  
看護実践・教育・研究共創  
センター長  
わずみ よしこ  
和住 淑子

当センターは、看護学が独自の教育研究分野を確立しつつあった昭和50年代半ば、看護系大学の教員等、看護学分野の調査研究に従事する者、指導的立場にある看護職員の共同利用に供することを目的として、1982年4月に千葉大学看護学部付置センターとして設置されました。設置当時の社会情勢に鑑み、当初組織は、継続看護研究部・老人看護研究部・看護管理研究部の3研究部構成でした。その後、急速に進展する少子高齢化社会とその看護ニーズに応える看護ケア開発を促進するため、老人看護研究部をケア開発研究部と改称しました。さらに、保健・医療・福祉制度の改革に伴う看護職者の役割拡大に関わる政策研究やキャリア開発を促進するため、看護管理研究部と継続教育研究部を発展的に統合し、政策・教育開発研究部が発足しました。さらに、2021年、看護学研究科が看護学研究院へと改組され、教育組織と教員組織を分離する組織改革が行われました。以降、当センター固有の教員組織はなくなり、コア・メンバーを中心とする看護学研究院全教員がセンター事業に参画するようになりました。

このように、当センターは、時代の変化に合わせて組織の形を変えながら活動を続けて参りましたが、今、世界はこれまでにない大きな変革期を迎えています。特に、看護をとりまく医療・介護分野では、次々とイノベーションが生まれ、看護職には、人々の持つ多様な力をテクノロジーと結びつけ、個人および社会のwell-beingを実現する、これまでになかった役割の発揮が求められるようになってきています。このような急激な環境変化に創造的に適応し、臆せず、柔軟な発想で新たな看護の役割を果たすことのできる次世代の看護職育成に向け、当センターでは、2024年度から、全国の看護系大学教員の「次世代育成力」を重層的に強化するレベル別体系的FD研修プログラムをスタートさせました。

今後も、当センターを利用してくださる皆様が相互に響き合いながら、惑うことなく創造的な取り組みを続けていくことを支援する拠点でありたいと思っております。皆様のご活用をよろしくお願いたします。

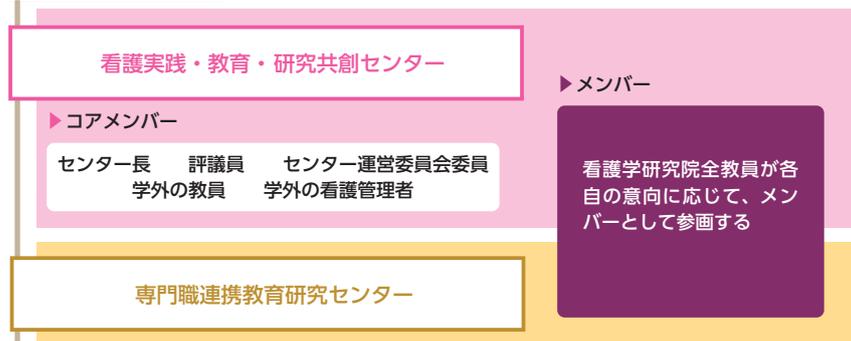
## ～千葉大学大学院 看護学研究院とのつながり～

令和3年4月より千葉大学大学院看護学研究院は、教育組織と教員組織を分離する組織改革を行いました。これにより、当センターにおいてもセンター固有の教員組織はなくなり、看護学研究院全教員が、教育・研究・社会貢献およびFD活動として、附属センター事業に参画するようになりました。「実践-教育-研究をつなぐ」というセンター理念のもと、事業にかかわる学内教員のすそ野を広げると共に、学内のみならず学外の教員・看護管理者の方にもコアメンバーとしてご活躍いただく体制となりました。多彩な方々との連携、協働を深めることで、ピア・コンサルテーションによる「課題解決型研修」において、個別課題に応じた専門性の高い支援教員の選択とマッチングを可能とし、質の高い教育支援の実現につなげて行きたいと思っております。

### 教員組織



### 附属センター



千葉大学大学院看護学研究院の多彩な教員が、コンサルテーションやアドバイザーとして活用可能となった新体制。学外の教員・看護管理者と共にセンター事業を運営、企画します。

## センターの基本理念

# 実践－教育－研究をつなぐ

当センターは、1982年(昭和57年)、調査研究、専門的研修等を行うとともに、看護系大学の教員等、看護学分野の調査研究に従事する者の利用に供することを目的として設置されました。センターの基本理念である『社会が期待する看護の価値の創造に向けて、実践－教育－研究をつなぎ、利用者との共創のもと、全国の看護系大学および地域の関連施設の機能の充実・発展をめざす』の実現を目指し、生涯学習支援を主体とした看護の向上に向けた事業を行っています。

## センターの名称を変更しました！

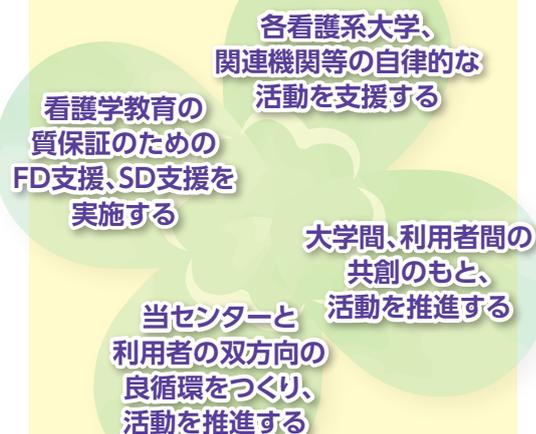
### －『共創』に込めた思い－

「看護実践研究指導センター」として、39年間、皆様の温かいご支援のもと活動を継続して来ましたが、この度、センター名称を新たにしました。2021年4月より『看護実践・教育・研究共創センター』へ変わりました。

感染症がもたらした大きな社会変革、時代の変化に応じて、これまでの知識提供型の研修事業の在り方を抜本的に転換し、「利用者相互のピア・コンサルテーション」を軸に、新事業を展開してまいります。

ピア(peer)とは、同じような立場や境遇、経験等を共にする仲間を表し、教わる一指導する関係を排除して、目的を達成するためお互いの力を出し合って、看護の知を新たに創出し続けていこう、との思いが込められています。

## センターの基本方針



センターリニューアルのコンセプト

時代の変化に即した  
看護イノベーションの  
創出に向けて

当センターでは、地域で人々のLife(生命・生活・人生)を支える自律的看護職を輩出するために、看護学教育の継続的質改善に取り組んでいます。



### ①看護系大学教員が見つめるエレメント

自己の立ち位置を多面的に見極めることができるように、視野に入れるべき要素と要素間の関係性、関係性の壮大な広がり範囲を表しています。



### ②継続的質改善を実現する思考過程を螺旋的に歩む

すぐにどうしたらよいのかと解決策を考えるのではなく、この現状が過去の如何なる経緯の積み重ねによってつくりだされてきたのか、そのプロセスを振り返る。これを繰り返す中でありたい姿が見えてくるようになる。ピア・コンサルテーションが刺激する思考過程と繰り返しによる発展(螺旋)を表しています。

## センター事業 ① 研修事業

### FD支援

- レベル別FD研修
- オンデマンドコンテンツ
- 看護系大学への個別支援

### SD支援

- 看護管理者向け課題解決型研修
- オンデマンドコンテンツ

利用者は最先端の情報や課題を持ち寄り、当センターは必要なニーズを把握、事業の計画と運営を行います。特に課題解決型研修では目的を共有し、利害関係のない研修参加者がグループワークを通して、相互に刺激し支援し合うピア・コンサルテーションを展開します。当センターと利用者の双方向の良循環を作ると共に、利用者相互の関係構築・発展をファシリテートしています。

社会の変化に伴い看護職に期待される役割の変化

看護系大学の急増に伴う実習施設・教員の質的・量的不足

各大学が特徴を生かし学生の多様性に対応して持続的に機能するための自律的な教育のCQIへの支援不足



生涯学習支援



生涯学習支援

地域の関連  
医療・福祉  
施設

共創

実践

機能の充実・発展

社会が期待する  
看護の価値の向上  
教育・研究・実践

人々の健康と  
暮らしの向上

## センター事業 ② 情報発信・ネットワーク化

- 健康支援の質を左右する重要情報を蓄積し、看護実践・看護学教育の改善に活用可能なデータベースの構築
- センター研修を通じた人的ネットワークの構築を支援
- センターの実績、研究成果を利用可能な資源として発信

看護実践・教育・

意欲・動機の高まり

在的能力に気付く

見方が転換

期待する  
創造に向けて、  
実践をつなぐ

と地域での  
を支援

教育  
研究

全国の  
看護系大学

共創

機能の充実・発展

AI, IOTが当たり前となる時代に、人間中心のテクノロジーを使いこなす新たな健康支援方略を解明

各施設(教育機関・医療機関)の課題解決の軌跡が可視化され、組織の改善や変革の方向性の見定めが可能となり、人間中心の社会実現を促進

急増する看護系大学の教育内容の改善効果により、社会ニーズに即した医療人材を育成

研究共創センター

### 看護学教育研究共同利用拠点とは

令和6年5月現在、全国で12大学15拠点が文部科学大臣より「教育関係共同利用拠点(大学の職員の組織的な研修等の実施機関)」として認定されています。「看護学教育研究共同利用拠点」はそのうちのひとつであり、かつ、看護学分野としては唯一の拠点です。教育関係共同利用拠点制度は、多様化する社会と学生のニーズに応えつつ質の高い教育を提供していくために、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等を推進することで大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開していくことが重要であることから創設されました。センターの事業計画と重要事項を審議するため、研究院長、センター長、外部の学識経験者等の委員で構成された「センター運営協議会」を年に1回開催しています。

## 活用可能な情報・資料



当センターで実施した事業成果である各種コンテンツをホームページからダウンロードが可能です。左のQRコードからホームページ画面「活用可能な情報・資料一覧トップ」にアクセスしてご活用ください。主なものの一部を下にお示します。

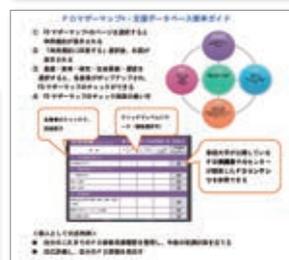
### FD・教育活動 FDマザーマップ® Ver.3及び支援データベース

看護系大学教員に必要な能力のうち、特に看護に特化した能力を網羅的に示したもので、「基盤」「教育」「研究」「社会貢献」「運営」の要素からなります。組織としてFDの課題を見出す、体系的なFDに向けて整理する、個人の能力を各自が評価するためにも使えます。

使用してもらいながら、見直しを行い、現在、Ver.3を掲載しています。

FDマザーマップ®の特長やさまざまな活用方法、FDコンテンツ、FD実績表を掲載しています。

FD実績表は、登録している看護系大学が実際に行ったFDの実績の記録を掲載しています。公開されている他大学のFDの企画は、自大学のFD企画のヒントになります。



### FD・教育活動 FDコンテンツ

FD研修に活用できるコンテンツを各種掲載しています。

### 看護実践 組織変革型看護職育成支援データベース

国公立大学病院副看護部長研修における参加者の実施したプロジェクト実践報告書をデータベース化し、公開しています。この実践報告書は、執筆者の承諾を得て公開しており、多様な取り組みを検索することができます。



### 課題解決プロセスデータベース(利用者限定)

研修を受講された皆様の課題解決の軌跡をデータベース化し、問題解決のヒントとしてご活用いただけるよう随時更新していきます。

## 事業実績

センター開設から40年以上にわたり、研修で得られた知見を他分野での研修に活かし、実践—教育—研究をつなぐSD、FD支援を提供してきました。時代の変化と共に看護職の活躍の場も広がり、異動や昇進を契機にセンター研修を繰り返し受講された方も少なくありません。センターの活用実績は、看護職者延べ10,003人になります。

### 事業実績(昭和57年度～令和5年度)

(単位：人)

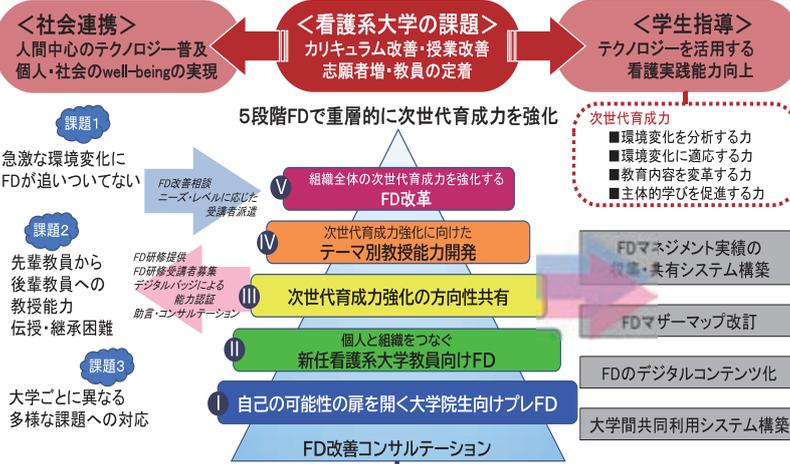
	共同研究者	教育機関の研修受講者	保健医療機関・その他の研修受講者	計			
1982 (昭和57)年度 ～ 2020 (令和2)年度	●センター共同研究 ●センタープロジェクト研究	576 320	●看護婦学校看護教員講習会 ●FD企画者研修 ●看護学教育ワークショップ (全日程)	569 30 1,605	●センター研修(現任者向け) ●センターテーマ別研究研修 ●国公立大学病院副看護部長研修 ●看護管理者研修/ 国公立大学病院看護管理者研修 ●看護学教育指導者研修 ●認定看護師教育課程	281 89 335 3,038 548 313	
	計	896	計	2,204	計	4,604	7,704
2021 (令和3)年度	●センター共同研究	27	●看護学教育ワークショップ(全プログラム) ●課題解決型研修 (看護系大学教員向け)	12 33	●課題解決型研修 (看護管理者および中堅看護者向け)	51	
	計	27	計	45	計	51	123
2022 (令和4)年度	●センター共同研究	6	●看護学教育シンポジウム ●課題解決型研修(看護系大学教員向け) ●webセミナー	554 28 496	●看護学教育シンポジウム ●課題解決型研修 (看護管理者および中堅看護者向け) ●webセミナー	4 56 229	
	計	6	計	1,078	計	289	1,373
2023 (令和5)年度	●センター共同研究	6	●看護学教育シンポジウム+webセミナー ●課題解決型研修(看護系大学教員向け)	683 36	●看護学教育シンポジウム+webセミナー ●課題解決型研修 (看護管理者および中堅看護者向け)	13 65	
	計	6	計	719	計	78	803
	合計	935	合計	4,046	合計	5,022	10,003

※2021(令和3)年度実績外の利用者：看護学教育ワークショップ(講演のみ)104名

## 次世代育成力強化のための看護系大学 FD 推進拠点

### 看護系大学教員の次世代育成力を重層的に強化する先進的・体系的FDプログラム

医療・介護分野の急激なテクノロジーの進歩 → 多様な力をテクノロジーと結び付け個人・社会のwell-beingを実現する看護の新たな役割



### 千葉大学看護学研究院および附属看護実践・教育・研究共創センターの資源と実績

- 2020 「Society5.0看護」創出拠点 ⇒ 看護職の新たな役割発揮の方向性をFD研修により全国の看護系大学と共有
- 2016 「看護学教育の継続的質改善(CQI)モデルの開発と活用促進」 ⇒ 各看護系大学の教育質改善のFD 次世代育成力強化に向けた自大学内FD充実
- 2011 「看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同活用の促進」 ⇒ FDマザーマップの公表・利用FD デジタル教材・看護AI開発に必要な人的・物的環境
- 2010 「教育-研究-実践をつなぐ組織変革型看護職育成支援プログラムの開発」 ⇒ 医療現場との連携実績の向上
- 1982 センター設置全国向け研修開始
- 1975 国立大学唯一の看護学部 3,600名の卒業生を輩出 多くが全国の大学教員 先進的教育・研究により我が国の看護学教育を先導、看護先進・体系的FDの実施

あらゆる分野でこれまでのしくみや制度を覆すような深淵かつ広域な変化に直面する中、教育においても、分野を問わず、教育の目標や方法を根本的に見直す動きが始まっています。看護をとりまくヘルスケア分野においても、次々にイノベーションが生まれ、医療・介護をとりまく環境は激変しています。

このような環境変化を受け、当センターでは、「次世代育成力強化のための看護系大学FD推進拠点」事業に取り組んでいます。この事業は、環境変化に創造的に適応する看護職育成を実現する先進的・体系的FDプログラムの提供と大学間における共同利用システム構築を通して、看護系大学の次世代育成力(①環境変化を分析する力、②環境変化に適応する力、③教育内容を変革する力、④主体的学びを促進する力、の4つの力が統合された力)を強化することを目的としています。

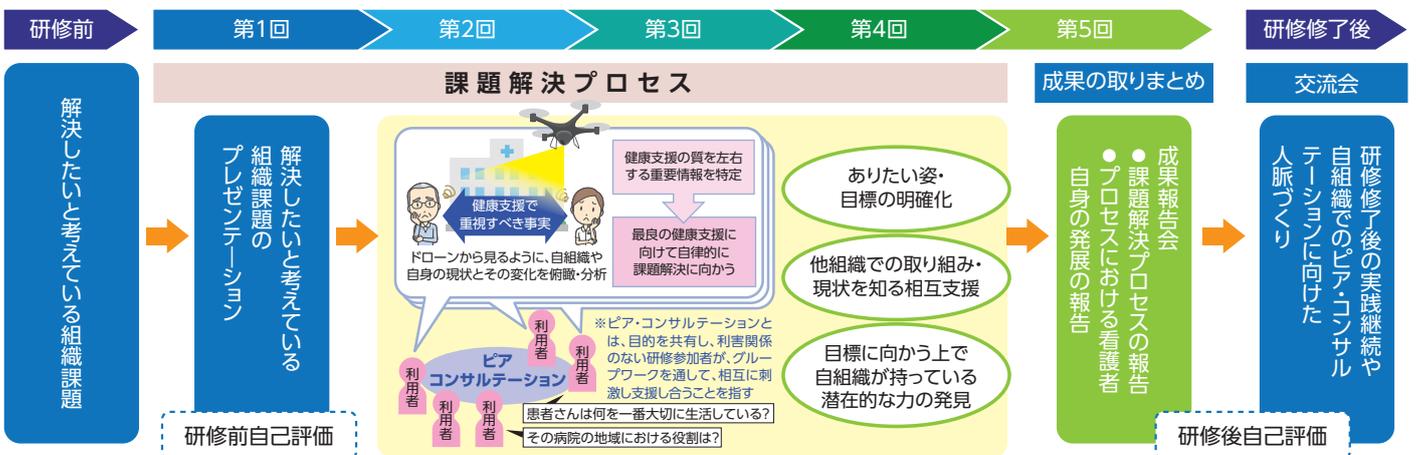
本事業は、看護系大学教員を目指す大学院生から管理的立場にある看護系大学教員まで、あらゆる立場にある看護系大学教員のFDニーズに応える5段階のレベル別体系的FD研修を提供し、我が国全体の看護系大学の次世代育成力を重層的に強化する、我が国初の先進的取組となります。新規の研修事業は、令和6年度より受講者の募集を開始しています。

## 課題解決型研修

本研修は、解決したい組織課題を有する全国の《看護管理者》を対象に、8カ月にわたって5回のグループミーティングを行いながら、ピア・コンサルテーションによって調和的課題解決を支援する出力型の研修です。

オンライン研修のため、移動を伴う対面研修では難しかった遠方からの参加が可能となりました。

### プログラム構成



## 令和5年度《看護管理者および中堅看護者向け研修》参加者の声

管理職としての様々な共有の悩み・課題を理解しあえる仲間ができた。自分だけではなく皆が困難に向き合い解決に向けて取り組まれていることが、励みとなり自分のモチベーションアップにつながることができた。

毎回、グループメンバーの皆さんと本音で困りごとを相談でき、解決策を見出せたとともにストレスも緩和されました。

客観的に第三者の立場から率直な意見を聞くことができ、自身の課題解決プロセスにとっても参考になった。同じ看護師長の立場でも組織や地域性で役割や価値観が違うことがわかった、しかし、師長としての軸や信念は同じであることがわかり、自身の信念の確立にもつながった。

## 学内コアメンバー紹介(令和6年4月1日現在)

地域創成看護学講座	教 授	諏訪 さゆり(研究院長)
看護政策・管理学講座	教 授	和住 淑子(センター長)
高度実践看護学講座	教 授	眞嶋 朋子
	教 授	増島 麻里子
高齢社会実践看護学講座	准 教授	黒田 久美子
地域創成看護学	助 教	湯本 晶代
文化看護学講座	准 教授	斉藤 しのぶ
専門職育成学講座	教 授	中山 登志子
	助 手	植田 満美子
看護政策・管理学講座	特任教授	島田 陽子
	准 教授	錢 淑君
	講 師	飯野 理恵

### 看護学教育研究共同利用拠点

## 千葉大学大学院看護学研究院附属 看護実践・教育・研究共創センター



Collaborative Center for Development of  
Nursing Practice, Education and Research

詳しくはホームページをご覧ください

センターURL <https://www.n.chiba-u.jp/center/>

〒260-8672 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1  
TEL 043-226-2464(千葉大学亥鼻地区事務部総務課総務第三係)  
センターメール: [kango-cqi@chiba-u.jp](mailto:kango-cqi@chiba-u.jp)



### [亥鼻キャンパスへのアクセス]

JR千葉駅下車 東口7番バス乗り場より  
「千葉大学病院行き」または「南矢作行き」のバスに乗車し  
「千葉大看護学部入口」下車

英文パンフレット

